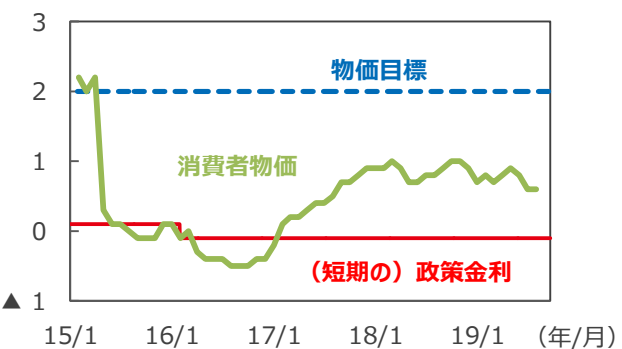


今日のトピック 日銀は現状の金融政策を維持（2019年9月） 次回会合で経済・物価動向を再点検

ポイント1 現状の金融政策を維持 市場の予想通り

- 日銀は19日、金融政策の現状維持を決定しました。短期の政策金利を▲0.1%、長期金利である10年物国債利回りをゼロ%程度とする金融調節を維持しました。また、長期国債を買い増すペースを年間で約80兆円を目途とすることや、上場投資信託（ETF）やリートの買入れ方針も据え置きました。フォワードガイダンス（先行きの指針）も継続しました。
- 日銀の金融政策維持は市場の予想通りでした。

【政策金利と消費者物価】



▲ 1
 (注) データは2015年1月1日～2019年9月19日。
 消費者物価（除く生鮮食品、前年同月比）は2019年7月まで。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 円安・株高が追い風 日銀は副作用に目配り

- 日銀が金融政策の現状維持を決めた背景には、足元で円安・株高の追い風が吹いていることがあります。対米ドルで一時104円台に上昇した円相場は、108円付近に下落していることに加え、日経平均株価が年初来高値圏にあるなど、追加緩和が要求される環境ではありません（19日14時時点）。
- また、異次元緩和を続けてきた日銀は、緩和の長期化に伴う銀行の収益圧迫や機関投資家の運用難などの副作用への目配りが必要なため、追加緩和は出来るだけ温存したいのが本音と考えられます。

【ドル円レートと日経平均株価】（円/米ドル）



(注1) データは2018年1月4日～2019年9月19日。
 (注2) 2019年9月19日は14時時点。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 次回会合で経済・物価動向を再点検

- 日銀は声明文に、「物価安定の目標に向けたモメンタムが損なわれる恐れについて、より注意が必要な情勢になりつつある」との文言を加えました。さらに、「展望レポート」を公表する次回10月の会合で経済・物価動向を改めて点検していく考えを示しました。
- 欧州中央銀行（ECB）は12日に小幅な利下げと量的緩和の再開を決定しており、米連邦準備制度理事会（FRB）も18日に追加利下げを実施しました。世界的に中央銀行が金融緩和に舵を切るなかで、次回会合での日銀の判断が注目されます。

ここもチェック! 2019年9月13日 ECBは金融緩和を再開（2019年9月）
 2019年9月 9日 米景気鈍化を示唆する雇用統計（2019年8月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。